

シラバス

ここで指定された「事前学習」「事後学習」は発展課題です。

提出しなくても、良い成績がとれます。

ワークブックに指定された授業内の「事前課題」「事後課題」を提出した人のみ、

西村美東士宛てメールで送信することができます（加点方式）。

提出しなくても減点はされませんので、安心してチャレンジしてください。

科目名： 青少年教育論	担当教員名：西村 美東士
法定科目名： 社会教育特講	

● 単位数：2単位

集合学習(対面)+オンデマンド型(PowerPoint等による録画動画配信・スライド資料の配信)。状況に応じて同時双方向型(Zoom等によるライブ中継授業)。

Blackboard ID:西村美東士西村美東士・前・●●20221072)

対面授業に参加できない場合、規定の要件を満たす学生はZOOMでの参加を認める。

● ねらい、到達目標

この科目は文理学部(学士(教育学)のDP及びCP4,5に対応しています。

個人の生き方にとってもっとも大事なことは、その時期・時代を充実して生きることとつながっている。そのためには青少年に適切な支援・教育を実践する必要がある。そこで、本科目では前半では「青少年教育とは何か、その課題と現状」について紹介し、後半は「自分と社会」「集団・組織のなかで生きる」の観点から次の3点を中心に検討を深めていきたい。①自己内対話による自己の生き方・考え方への気づき、②個人・世間から社会への視野の拡大と、社会における自己の位置づけ、③個人完結型から社会開放型への価値観の転換。以上を通して青少年の社会化支援のあり方について、受講学生が自らの言葉で説明できることをめざす。

(A-4-3, A-5-3)

● 科目概要

青少年教育の概要・課題と現状/青少年団体の魅力復活/青少年教育施設論/青少年教育の今日の展開/まだ遠い「青少年教育論」/トランジション/個人化社会に生きる/自己決定の人生/貧困・格差・差別/日本の衰退/ワーク・ライフ・ソーシャル/支持的風土の仲間関係/自己決定と相互理解の方法/起業とソーシャルビジネス/「この授業で得たこと」(視野・能力・考え方・生き方・青少年教育論)。なお、教材はすべてホームページ(<http://mito3.jp>)で公開する。

授業の形式：【講義、演習】

授業は、基本講義形式で行ない、青少年教育論についての基本事項を授業する。加えて、①ワークを通じた自己や他者との対話、②VTRの視聴、③毎回の授業内での活動・意見交換等のグループワークを取り入れることで、学生が能動的な学習に励むよう促す。成果の提出はGoogleClassroomを通じて行う。

①授業前：レジュメ・リアクションペーパー・動画などをダウンロードする。テキストを熟読する。

②授業中：動画を視聴し、掲示板に自分の意見を書き込む。※相互方向通信システムを用いて授業を実施する場合あり。

③授業後：ワーク成果を、Googleフォームで提出。プラスアルファとして評価する発展課題については、別途GoogleClassroomで指示する。

対面授業に参加できない場合、規定の要件を満たす学生はZOOMでの参加を認める。

● 授業計画

	授業形態	各回の講義内容
第 1 回	講義	1 導入①本科目の意義と内容＝自己決定の人生は若者の願い/アクティブラーニングは自己内対話から/社会教育的な方法論－双方向システムと主体性の支援/第一印象ゲーム「春夏秋冬何が好き？」(交流による自他理解) (A-4-3) 【事前学習】自己内対話「社会に出たときの必要能力」(2時間) 【事後学習】文章化「私の考える青少年教育論」(2時間)
第 2 回	講義	2 基本的事項①青少年教育の概要・課題と現状＝少年期・青年期の自立/学校外教育/地域や社会で行われる支援の特性/拙著「若者に関する新たな議論から」解説 (A-4-3) 【事前学習】拙著「 若者サミットに期待する－若者に関する新たな議論から 」閲読(2時間) 【事後学習】文章化「若者に関する新たな議論を評論する」(2時間)
第 3 回	講義・演習	2 基本的事項②青少年団体の魅力復活＝戦後社会教育における団体主義/青年団の衰退と青年学級の振興/青少年団体の革新プラン/まちづくりにおける若者の役割 (A-5-3) 【事前学習】拙著「 子どもたちの団体活動－大いなる教育力 」閲読(2時間) 【事後学習】文章化「青少年団体の革新プラン」(2時間)
第 4 回	講義・演習	2 基本的事項③青少年教育施設論＝団体宿泊訓練の抑圧と解放/ルールの検討/合宿の魅力/団体宿泊施設における個人尊重主義/私が東京都青年の家で考えたこと・チャレンジしたこと/ワーク「2泊3日合宿プログラム」 (A-5-3) 【事前学習】拙著「 青少年教育施設の活動・経営をめぐる問題 」閲読(2時間) 【事後学習】文章化「青少年教育施設の革新プラン」(2時間)
第 5 回	講義	2 基本的事項④青少年教育の今日の展開＝青少年教育施策の混迷/青少年学社融合と学校教育の役割/地域の人々の子ども支援/青少年のまちづくりへの参画 (A-4-3) 【事前学習】拙著「 わが国の青少年教育及び青少年問題 」pp. 918-965 一読(2時間) 【事後学習】文章化「青少年教育施策の意義と問題」(2時間)
第 6 回	講義・演習	2 基本的事項⑤まだ遠い「青少年教育論」＝どういう若者・大人になりたいか/ヤンキー/ひきこもり/同調圧力/みんなぼっち/価値観ゲーム「愛・健康・自己実現…」/2012年青少年研調査 拙著「若者の意識、生活、考え方はどう変化したか」解説 (A-4-3) 【事前学習】再度「私はこの授業で何を学びたいか」を考えておく。(2時間) 【事後学習】文章化「私はどう生きてきて、どう生きていくか」(2時間)
第 7 回	講義	3 自分と社会①トランジション＝群れ(school)から離れて一人で社会に飛び出す/学校教育の価値観からの脱皮(工藤勇一『 麴町中学校の型破り校長-非常識な教え 』)/しかし、学校の役割はそれだけではない→「私はどう生きるか」 (A-5-3) 【事前学習】 拙評『麴町中学校の型破り校長-非常識な教え』 閲読(2時間) 【事後学習】文章化加筆訂正「私はどう生きてきて、どう生きるか」(2時間)
第 8 回	講義	3 自分と社会②個人化社会に生きる前編＝再帰性(結局「自分が悪かったんでしょ」と言われる)(古市憲寿『 僕たちの前途 』)/古市「そこに猛烈に立ち向かわないことによって、若者は絶望からくぐり抜けている」/自己決定論批判と反批判 (A-4-3) 【事前学習】 拙評『僕たちの前途』 閲読(2時間) 【事後学習】文章化「『猛烈に立ち向かわない若者』への理解と支援」(2時間)
第 9 回	講義・演習	3 自分と社会③個人化社会に生きる後編＝自分の人生は自己決定で生きる?/ 日次計画表 をつくろう/拙著「 若者との協働による価値創造の新しい方向 」・「 個人化を育む社会化支援教育の今日的課題 」「 個人化に対応する青年団体育成の方法を考える 」解説/個人化社会に生きる若者たちの動向(2012年青少年研調査結果から)

		(A-5-3) 【事前学習】上の3論文閲読(2時間) 【事後学習】文章化「日次計画表を作成して」(2時間)
第10回	講義	3自分と社会④貧困・格差・差別＝報われない差別観(学生の記述より)/ 拙評『高校生ワーキングプア』 『 女子高生の裏社会 』解説/大学生の保守化とZ世代の可能性 (A-4-3) 【事前学習】上の2拙評閲読(2時間) 【事後学習】文章化「差別観が報われない理由」(2時間)
第11回	講義・演習	3自分と社会⑤日本の衰退＝拙評佐藤学『 第四次産業革命と教育の未来 —ポストコロナ時代のICT教育』/ワークショップ「日本の衰退に教育はどう立ち向かうか」 (A-4-3) 【事前学習】 拙評『第四次産業革命と教育の未来』 閲読(2時間) 【事後学習】文章化「日本の衰退に教育はどう立ち向かうか」(2時間)
第12回	講義・演習	3自分と社会⑥ワーク・ライフ・ソーシャル＝川島高之『 いつまでも会社があると思うなよ 』/生涯学習時代における学校教育の役割/価値観ゲーム(職業) (A-4-3) 【事前学習】 拙評『いつまでも会社があると思うなよ』 閲読(2時間) 【事後学習】文章化「学生のワーク・ライフ・ソーシャルを支える大学の役割」(2時間)
第13回	講義・演習	4集団・組織のなかで生きる①支持的風土の仲間関係＝みんなぼっちからの脱却/ 拙評篠田桃紅『一〇三歳になってわかったこと～人生は一人でも面白い』 /拙著「若者の居場所に求められる第3の支援」解説/第一印象ゲーム「違いを楽しむコツ」 (A-5-3) 【事前学習】 拙評『一〇三歳になってわかったこと』 閲読(2時間) 【事後学習】文章化「若者の居場所のあり方」(2時間)
第14回	講義・演習	4集団・組織のなかで生きる②起業とソーシャルビジネス＝駒崎弘樹『 社会を変えたい人のためのソーシャルビジネス入門 』/ウェブサイト/助成金/起業の鉄則は、最初は小さく、どんどん大きく育てていく。/ワーク「ソーシャルビジネス企画」 (A-5-3) 【事前学習】 拙評『社会を変えたい人のためのソーシャルビジネス入門』 閲読(2時間) 【事後学習】文章化「ソーシャルビジネスの企画」(2時間)
第15回	講義・演習	まとめ「この授業で得たこと」/ワーク「この授業で得たこと」 (A-4-3, A-5-3) 【事前学習】「この授業で得たこと」(視野・能力・考え方・生き方・青少年教育論) (2時間) 【事後学習】文章化「この授業で得たこと」(2時間)

● 評価について

授業に出席したら、毎回、文章化を提出する。評価は、これをもとに行う。
対面授業に参加できない場合、規定の要件を満たす学生はZOOMでの参加を認める。

教科書は使用しない。必要な資料は、すべて、ホームページ(<http://mi.to3.jp>)で公開する。